

2014年度 法人事務局 事業計画

目標： 地域に仕えるデンマーク牧場福祉会の働きを積極的に伝える

1. 中長期計画の作成

2014年度に福祉会の中長期計画を作成し、10年後の福祉会を職員が共通にイメージし、地域に対しても情報を発信していく。

○高齢者福祉：

高齢者人口の増加は今後も続いていき、2020年を境にして前期高齢者層（65歳以上75歳未満）は64歳以下の年齢層と同様に減少していく。この結果、2020年以降は、後期高齢者（満75歳以上）のみが増加し、2035年には、総人口の2割を占めると予想されている。（65歳以上全体では総人口の約3分の1）これらに対応するため、行政などでは、高齢者福祉施設の増加を計画していき、職員の確保が困難になってくることが予想される。

この中で、ディアユニアが提供している施設サービス、在宅サービスを充実させ地域からの信頼を高めることが必要となる。また、新たなサービスを提供することも検討していく。

○児童養護：

少子化の進行や核家族化に伴う育児不安や子育て時の孤立化に加えて、児童虐待の増加、子どもが犯罪に巻き込まれるなど、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化している。こうした状況を踏まえ、次世代を担う子どもが家庭や地域で心豊かに生活できる環境づくりが、極めて重要な国民的課題である。

2014年度にはこどもの家の建築が行われることが決定している。

○医療：

中東遠地区の精神科の診療所として更なる充実を図る。

○牧場：

牧場を有しているという利点を各施設が十分に理解し活用を推進する。

2013年度から日本キリスト道友会から引き継いだ牧場運営、乳製品等販売事業を安定させ、全ての施設はこれと連携し、牧場の働きが良いものとなるようにする。

中長期的な計画として、プラント設備の更新の時期や費用等は福祉会全体としても大きな課題である。

○法人：

質の高いサービスを安定して提供するためには職員が定着することが必須である。先進的な制度等を導入している他法人の状況を把握し、福祉会として検討していく。

2. 広報の強化

施設広報誌を活用し、各施設の取組を地域に伝える。

- ・ふくしむら21と連携・活用して法人の状況の広報に努める。
- ・わいわいワーク、講演会、日本キリスト者医科連盟の講演会等を活用し法人の働きの広報に努める。

3. 研修

法人主催の研修を充実させることにより、理念を職員が学ぶ機会を設けるとともに、同じ法人内の他施設で働く職員との交流を推進する。新たにスキルアップを目指す職員向けの海外研修プログラムをルーテル学院大学等と連携して独自に作成していく。

4月 新任職員オリエンテーション

5月 感謝会

6月、1月 合同職員研修

海外研修プログラム案

- ・勤続5年以上の職員が海外の施設を見学
- ・海外の施設で実習